

各種委員会



- ・第1種委員会
- ・女子委員会
- ・フットサル委員会
- ・財務委員会

- ・第2種委員会
- ・キッズ委員会
- ・技術委員会
- ・夢きたれ特別委員会

- ・第3種委員会
- ・シニア委員会
- ・審判委員会
- ・マーケティング特別委員会

1種委員会の現状と取り組みについて

第1種委員会



委員長 高木 真一

成果と課題を踏まえた競技力向上への歩み

第1種委員会は社会人・大学・高専・専門学校・自治体・自衛隊各関係連盟及び関連委員会のご協力の元、2025年度の各種事業を終了することが出来ました。

第1種所属各連盟主催の全道大会は、道内各連盟・協会関係者のご尽力と参加選手、チームスタッフの熱意により、どの大会も活気のある有意義な大会となっておりました。全国大会においては、第79回国民スポーツ大会サッカー競技（成年男子）において北海道代表チームが第4位という成績を収めることができました。

また、第1種内の各種別においても、全国の強豪との対戦

を経験すること競技レベルの向上が認められており、2026年度は全国上位の成績を収めることを期待しています。

登録チーム数及び全道大会参加チーム数の減少等、第1種を取り巻く環境は厳しさが続いておりますが、2026年度においても所属各連盟で問題点を共有しながら、サッカーを楽しむ続けることを忘れずに競技力及び大会運営能力の向上に向けて努力していきたいと思っております。

全国と戦い続けるために

第2種委員会



委員長 石尾 浩一

プレミアリーグ再参戦に向けた課題と展望

北海道のチームは、2023年の旭川実業以来プレミアリーグに参戦できておらず、地域で全国トップレベルの試合を観戦できる機会も失われている。プレミアリーグ参戦はチームの経験向上だけでなく、地域全体の競技基準を押し上げる重要な要素である。日本代表が世界トップ基準を目指し、プレミアリーグ経験者が国際舞台で活躍している現状を踏まえると、プレミアリーグの価値は一層高まっている。JFA2種委員長

会議ではプレミアリーグとUEFAユースリーグの比較分析が行われたが、北海道勢は参戦していないため対象外であった。全国高校選手権の質の向上や年代別代表の成長にもプレミアリーグの存在が影響しており、北海道での開催は地域強化に直結する。北海道のチームがいかにプレミアリーグに参入し続けられるかが課題であり、現状を理解してもらうだけでは差は縮まらない。北海道2種委員会としてリーグの質をさらに高め、再び北海道でプレミアリーグが開催される環境づくりに努めていきたい。

新たな時代のサッカー環境整備を

第3種委員会



委員長 大石橋 計幸

登録減少への対応と持続可能な競技環境の構築

登録選手数・登録チーム数減少の原因を、すべて「少子化」に求めてはいけなと承知しております。北海道全体の第3種年代のサッカー環境を、より一層改善してまいりたいと気持ちを引き締めているところです。

1地区ではリーグ戦を実施することが困難な状況が拡大しています。2026年度中には、トップリーグの所属チーム数等も含めて第3種年代のリーグ戦構造改革を推進することを、指導者の皆様に周知申し上げておりました。

北海道を冷涼地とはいづらい時代となりました。暑熱対策、リーグ戦の実力拮抗等をふまえ、義務教育年代である中学生選手・保護者・指導者、すべての関係の皆様にとって安心安全なサッカー環境の構築を目指してまいります。

引き続きよろしくお願い申し上げます。

未来への一歩

女子委員会



委員長 中川 綾子

北海道における育成と競技環境の充実に向けて

北海道の女子サッカーは男子に比べ競技人口こそ少ないものの、全国的な少子化や競技継続者の減少傾向が続く中にあっても、登録人数は現状維持から微増という状況を保っています。HKFA中期ビジョンにおいて女子を重点分野の一つと位置づけていただいており、その方針のもと、女子委員会として独自のビジョンを描きながら環境整備に取り組んできました。2026年度からは新たな施策として「北海道女子サッカーチャレンジリーグ」（北海道女子サッカーリーグ2部に相当）と「北海道女子サッカー育成リーグ」（出場機会の少な

い選手やチームに試合機会を提供）の2つのリーグを創設し、公式戦の場と出場機会を拡充しました。これにより、一度サッカーから離れていた選手が競技に復帰するきっかけも生まれつつあります。

全国でも「U-18女子サッカープレミアリーグ」創設が決定されるなど新たな動きが始まっており、北海道の女子サッカーもその流れと歩調を合わせながら、未来へ向けた確かな一歩を踏み出しています。

ファミリー拡大を目標に

キッズ委員会



委員長 遠藤 祥悦

子どもたちのためのキッズ活動 推進の取り組み

日頃よりキッズ活動を理解していただきありがとうございます。また活動に関して多くの人たちが子どもたちのために関わって頂き本当に感謝申し上げます。

さて、今年度より学童保育へのサッカー教室や小規模地域でのミニサッカーフェスティバルの実施の取り組みを始めます。普段会場が遠く参加できない子どもたちのために少しで

もサッカーができる環境を繕いたいと思っています。また子どもたちが体を動かすお手伝いができたらと考え取り組んでいきます。北海道全体で子どもたちがどこでもいつでもサッカーができる環境をつくっていきたいと思っています。今後ともご支援ご協力お願いします。外で遊ぶ機会が少なくなってきた昨今、サッカーをする環境はとても大切だと思っています。ボールと遊びながらサッカー経験させたいです。

シニア種の現状と今後について

シニア委員会



委員長 佐藤 英隆

生涯スポーツとしての発展

シニア委員会及び道シニア連盟では、全国大会予選となる全道大会から、親睦を目的とした大会まで、競技志向に応じた大会の企画・運営を行っており、2025年度は全事業を予定通り実施することができました。シニア種の登録状況は、登録を開始した2000年の11チーム・340名から増加を続け、2025年度には137チーム・2846名となり、全国的にも有数の規模を誇るカテゴリーへと成長しています。また、北海道最高齢(91歳)の現役選手がプレーを継続していることも、本力

テゴリーの特徴の一つです。少子高齢化・人口減少が進む中にあっても、シニア層は拡大を続けており、北海道サッカー界において重要な役割を担っていると認識しています。当委員会及び道シニア連盟では、競技志向だけでなく「再開者・初心者を受け皿機能」を強化し、親睦大会における参加資格緩和や80歳代・女子シニアの新たなプレー機会創出などを進め、多様なニーズへの対応や参入障壁の低減を図っております。今後もHKFA中期ビジョンに基づき、再開者の掘り起こしとプレー環境の整備を進め、シニアサッカーの更なる発展に努めてまいります。

北海道フットサルの展望

フットサル委員会



委員長 野呂 雅友

競技力向上と育成体制強化への取り組み

私は2022年度よりフットサル委員長を務めており、現在3期目を迎えております。日頃より各種大会の運営にご協力いただいております15地区FA、5地区フットサル連盟、運営役員、審判員の皆様に、心より感謝申し上げます。

近年は、15地区FAのフットサル委員長による連携体制を構築し、情報共有や大会主管の調整機能の強化に取り組んでまいりました。また、技術委員会との連携を進め、2026年度には「フットサル部会」を立ち上げ、トレセン活動、選抜チーム活動、指導者養成を含めた育成体制の充実を図ってまいります。

北海道フットサルリーグでは、各クラブによるホームゲーム演出の充実が進み、観客動員数700名を超える試合も開催されました。さらに、エスポラーダ北海道様のご協力により、フリーグ公式戦の前座試合として、全日本大学フットサル大会北海道代表決定戦およびU-18会長杯リーグ北海道代表決定戦を開催することができました。

今後も各地域との連携を一層深めながら、競技力の向上、普及活動の推進、次世代選手の育成に取り組み、北海道フットサル界のさらなる発展に努めてまいります。

環境づくりと指導者養成を通して

技術委員会



委員長 上田 充士

技術委員会の一環の役割は、選手が成長する環境を構築することと、それを担う指導者を育成することです。選手が成長する環境づくりは、日常のトレーニング環境とバランスの取れたリーグ戦やカップ戦などのゲーム環境が重要となります。更に、現在の人口減少社会にある北海道の現状を考えると、今まで以上にゲーム環境の再構築や普及活動の充実を図る必要があります。誰もがサッカーにアクセスしやすい環境づくりに種別や委員会の垣根を取り払って取り組むことが大切と考えています。そして、その環境を作るのが、セーフガーディングの浸透と一人一人の指導者の成長が鍵であることは、言うまでもありません。

今年度は4年に一度のワールドカップイヤーです。要覧の発行時には、既に日本代表の挑戦の結果が出ていると思いますが、北海道から毎年いい選手が育ち、ワールドカップなどの舞台で活躍する選手が生まれるような地域を皆さんと目指したいと思います。27年1月16日(土)・17日(日)に札幌コンベンションセンターで開催されるJFAフットボールカンファレンスに、皆さんもお誘いあわせの上是非ご参加ください。

2026年度審判委員会の方針について

審判委員会



委員長 藤井 陽一

フェアで安全な試合を支える審判の挑戦—北海道サッカーの質向上と次代への育成に向けて

審判委員会は、2026年度より全てのサッカーファミリーが「フェアで、安心・安全な試合」を楽しめることを第一に、「審判員・指導者が成長と楽しさを実感できる環境を構築し、公正で質の高いゲームコントロールを通じて、北海道サッカーの発展への貢献」をミッションに掲げ、「高いゲームコントロール力の実現」「育成序列の確立と強化」「審判員が成長と楽しさを実感できる環境整備」という3つの柱を軸に、活動してまいります。

現在、次代を担う審判員の確保と定着が急務となっています。この課題に対し、今年度より新たに「ユース審判員普及&育成プロジェクト」を始動し、審判活動の「入口」を広げるとともに、研修会を通して審判の醍醐味を体感できる場を創出していきます。審判員と審判指導者が共に成長し、次代を担う人材を育成することで、北海道のフットボールを強く支えていければと考えています。皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

持続的成長を見据えた財務改革の推進

財務委員会



委員長 後藤 猛

限られた資源の有効活用と組織の活性化を目指して

財務委員会では、従来の前年踏襲型の事業計画を漫然と継続するだけでは、将来的な停滞を招く可能性が高いとの認識に立ち、持続的な発展に向けた財務運営の見直しを進めています。その中核となるのが「コストダウン」と「選択と集中」、そして「新たな取り組みによる収入獲得」という二つの軸です。限られた資源を有効に活用し、必要性や効果を精査したうえで事業の重点化を図るとともに、固定費や運営費の見直しによる効率化を推進します。加えて、従来の枠にとられない新規事業や収益機会の創出にも取り組み、安定し

た財政基盤の強化を目指します。これらの施策を通じて、組織全体の活性化と持続可能な成長を支えていきます。

夢きたれ特別委員会について

夢きたれ特別委員会



委員長 鷲津 裕美

施設価値向上と持続的運営への取り組み

夢きたれ特別委員会は、2024年度に発足し、施設をより効果的に活用するための企画や運営を行い、施設運営の課題を整理し、その解決策を検討するとともに、(公財)北海道サッカー協会がこの施設を通じてどのように社会へ貢献し、発展していくかを、3年間の活動期間の中で示すことを使命としています。2025年度は宿泊者数が前年度の約2倍となり、施設へのニーズが明確になりました。これを踏まえ、持続的

な運営に向けた収益確保を見据え、経営計画を策定中です。また、マーケティング委員会と連携し、利用者満足度の向上に向けた取り組みを進めています。今後もサービスの質を高め、安心して利用できる環境づくりを進めながら、「施設の有効活用」を通じて、皆さまに親しまれる施設を目指していきます。

企業とサッカーがつながる価値創造

マーケティング特別委員会



委員長 八島 隆志

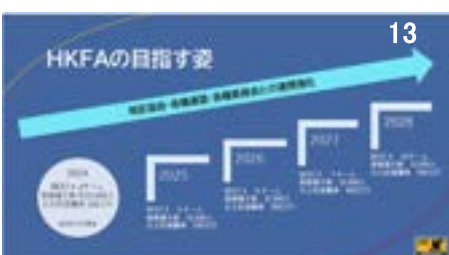
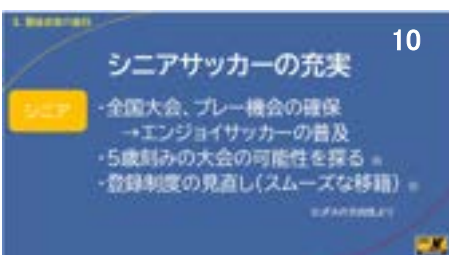
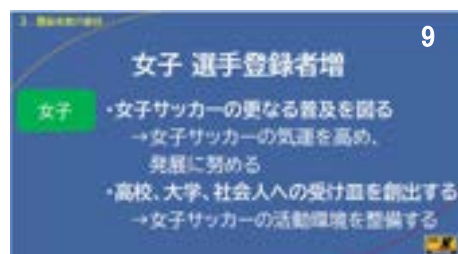
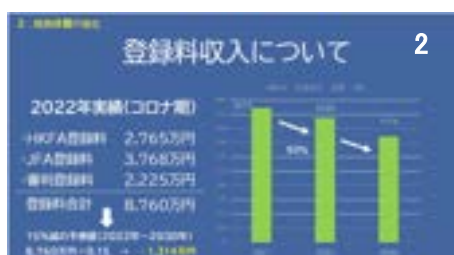
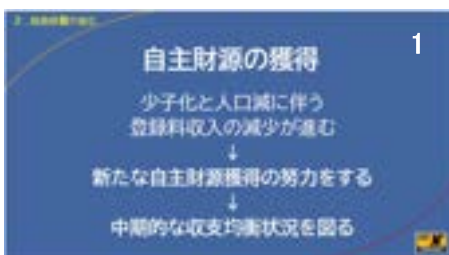
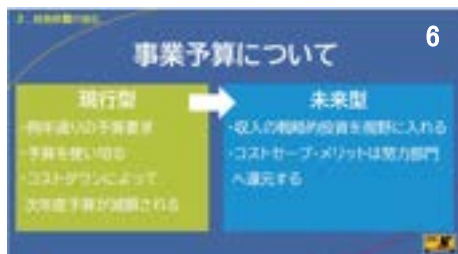
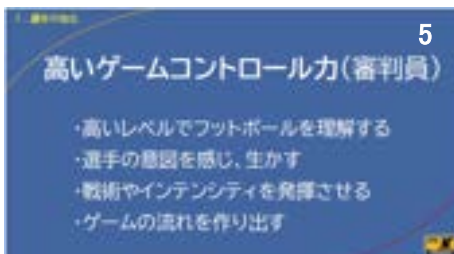
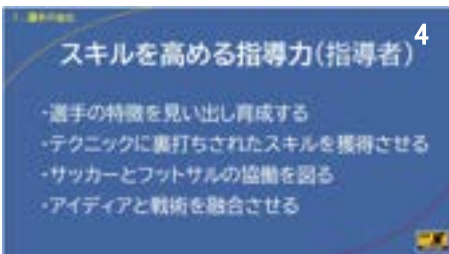
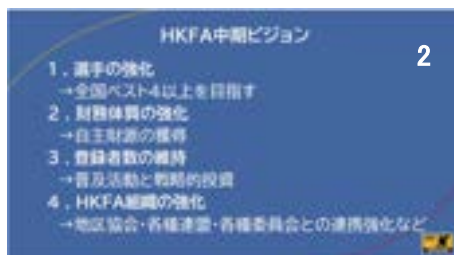
企業・地域と共創する サッカー振興と社会貢献の実践

2025年度マーケティング特別委員会では、HKFA中期ビジョンの理念のもと、企業とサッカーを通じた新たな価値創出に取り組みました。継続企業・新規企業への訪問を積極的に行い、寄付金の獲得だけでなく、対話を重ねることで企業と競技現場がつながる関係づくりを推進しました。

活動面では、豊平川花火大会翌日のゴミ拾い活動をはじめとする社会貢献を通じて地域との結びつきを強化するとともに、スポンサー企業名入りインタビューボードを制作し、大会での活用を通じて、企業と選手・大会を結び付ける機会を創

出しました。また、女子サッカーの普及を目的とした冊子制作や大会環境整備など、寄付金を活用した取り組みにより、企業支援が競技発展につながる好循環を生み出しました。年間では約20社を訪問し、131万円の寄付金を確保するなど一定の成果を上げることができました。これらの活動を通じて、企業・地域・サッカーが一体となった持続的可能な連携基盤の構築に寄与することができました。

北海道サッカー協会は、協会の描く姿を
フットボールファミリーの皆様と共有するため、
HKFA中期ビジョンを制定いたしました。



(公財)北海道サッカー協会HPでも公開しています